

川で遊ぶ



記事

年頭のご挨拶

事業報告1—好間1小土曜学習支援講座

事業報告2—せせらぎスクール指導者養成講座実践編(上級編)

事業報告3—水辺の観察会 in 夏井川

事業報告4—第3回夏井川かわくたり参加報告

事業報告5—26 時間通日水質調査(赤沼川水系)

事業報告6—『夏井川で遊ぶ、学ぶ、体験ツアー』支援

事業報告7—全国河川愛護団体交流会参加

事業報告8—新川ひょうたん島の清掃活動

寄稿文1—小玉川水辺の教室に参加して

寄稿文2—夏井川の思い出から ～ やっぱ夏井川は宝の川

<年頭のご挨拶>

水辺との新たな会話をめざして

橋本 孝一

明けましておめでとうございます。日頃からの皆様のご支援に感謝申し上げます。本年もよろしくお願い致します。

年が改まり、改めて旧年を振り返ってみて、当会の様々な事業も、「子どもたちの笑顔が見える夏井川」をめざして、流域一体となった活動として、少しずつですが着実に歩を前に進めつつあるように思います。

◆流域住民が中心になり、子供たちも一緒になっての「一斉水質調査」では、直接水辺の環境に触れ、川の水を採取して水質の分析等を通して情報を共有しています。上下流の交流事業では、夏井川本川沿いの小学校の交流事業も既に6年になり内容も定着しつつあります。さらに、昨年度は、夏井川水系で最も大きな支流である好間川流域では、上流部の三和小、下流域の好間一小の児童対象で水辺での学習支援にも取り組むことができました。夏井川流域内には、28の小学校があります。すべての小学校が学校に隣接する「学校の水辺」を持つことができれば、日常的に身近な自然である水辺に触れる機会が増え、「水辺との新たな会話」につながるものと思います。当会の大きな事業目標として取り組んでいきたいものです。

◆川と親しむ事業としては、これまで3回実施してきた「川下り」は、本会報の別稿に詳細が報告されていますが、年々、定着しつつあるように思います。他方、「ウォーキング」や「川沿いサイクリング」等は、参加者が必ずしも多くなく、実施の方法に課題があるように思います。皆さんからのご意を戴ければ幸いです。

◆他の河川愛護団体との交流・連携の面では、県内水環境活動団体交流会、全国河川愛護団体交流会等が、福島県で開催され、当会からも世話人を中心に数名参加しました。それらの場では、当会の事業内容を紹介すると共に、他団体の活動内容から貴重な情報を得ることができました。

◆本年も、当会の大きな目標に向かって前進していきましょう。より多くの会員の皆様の各種事業へのご参加をお待ちしております。

<事業報告1>

好間1 小土曜学習支援講座

木田都城子

8月6日、好間川、松坂吊り橋で好間第一小学校の3年生以上の生徒さんを対象に「好間川ってきれいな」が開催されました。この事業は好間公民館主催の「好間土曜学校」の一環として、好間町内を舞台に本年は工業団地の工場見学、まちあるき、お弁当づくりなどのメニューが6月から来年2月までの第一土曜日に合計8日間、予定されております。

猛暑の中、当日は約20名の生徒さんと好間第一小学校の校長先生が参加下さいました。午前中は「好間あるある探検隊」というまちあるきをなさっていたとのことで、お疲れではないかと懸念しておりました。しかし、水着と濡れてもよい靴を着用し、水あそびの装備を整えた一団は元気に水生生物の観察、川あそび、笹舟競争と好間川を堪能されておりました。

さて、今回の水生生物調査ではモクズガニやアメリカザリガニ、ハゼ、ナベブタムシなどのほかに環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（危急）に指定されているアカザ（ナマズの仲間）を観察することができました。水温の低い河川の上流域下部～中流域、溪流部の清澄な水底に生息する魚で、県内では会津の阿賀野川や大川に生息しているそうです。あらためて、いわきの水源、好間川の水質が良好であることを実感しました。

好間第一小学校は私の母校でもあり、当時から松坂吊り橋も好間川もありました。でも残念なことに、ここで川遊びをしたことはなく、水しぶきをあげるお子さん達をみて、こうした機会に恵まれていることをうらやましく眺めておりました。

今後も河川を環境保全と利活用、両側面から支援し、次世代に引き継ぎたいと思います。

ご協力いただいた会員の皆様、おつかれさまでした。

追伸

校長先生から「来年もまたよろしくおねがいします」との伝言を預かっております。



水生生物採取の様子



笑顔がはじける好間川！



アカザ



モクズガニ

<事業報告2>

平成28年度 せせらぎスクール指導者養成講座実践編（上級編）へ参加して

江尻勝紀

当会からは、佐藤雅子さん、井上久美子さんと小生の3人が参加しました。概要は以下の通りです。

○開催日：平成28年8月29日（月）9時20分～14時50分、○場所；実習会場 棚倉町山本キャンプ場／宮川（棚倉小学校にて意見交換会）

◆日程

9：20 受講者 山本不動尊駐車場集合 → 9：40 開会式 → 10：00 実習開始（受講生と児童対面（棚倉小4年生が参加、自己紹介）、・班ごとにCODパックテスト）→

10：15 水生生物採取（受講者は、4～5名を担当し、水生生物調査を行う。）→11：30 班ごとに採取した生物を判定し、集計表に記入。→ 12：00 閉会式 堤先生の講評 → 12：20 各自昼食（移動を含む）→ 13：40 意見交換会（棚倉小学校）→ 14：50 受講者解散

当日は、小雨の降る状況でしたが小学生は元気いっぱい受講していました。水の流れが速いところもあり、スタッフも冷や冷やする場面もありましたが概ね良好でした。実習も終了し、講評が終わってから、雨が降ってきて助かりました。その後、車で移動して道の駅で昼食を取り、棚倉小学校へ向かいました。意見交換会では、指導者は身近な自然を感じながら楽しむことが大切ではないかとの意見があり、準備の周知（用具の説明）が重要で、パックテスト等は何回か経験することが必要ではないか。また、生物採取の方法を説明することと、採取した水生生物を同定し、説明することが大切ではないかとの意見がありました。講座は、無事終了し、帰りには雨もあがりいわきに近づくにつれて、不思議と安堵の気持ちになり家路に着きました。お疲れ様でした。



<事業報告3>

水辺の観察会 in 夏井川

井上久美子

9月10日小川公民館にて、パルシステム福島環境委員会さんとの共催で『水辺の観察会』を行いました。親子9組30名が参加されました。短い時間の中、水質調査・水生生物の採取・観察・川遊びを行いました。親子での参加でしたので、水生生物の採取では、川遊びをした事のあるお父さんが活躍をされていました。

また、予め用意しておいた夏井川・新川・加路川の3箇所の河川水を対象にCODのパックテストで水質の比較をして頂きました。こちらは、初めての経験の方が多く、また小さなお子さんが多かったので、パックに検査水を入れるのが大変だったようです。それでも、何とか、場所による違いを確認できました。

昼食後、アクアボールで川遊び。透明なので川底も見え、川のヒンヤリした感じが気持ちよくボールなので、バランスを取るのが難しく、転がりながら川を進んで行きます（私も体験してみました）。思いがけない動きをするので、子ども達は歓声を上げていました。川遊びが楽しかったのか、後日に鎌田親水公園で行われる予定の「川下り」を申し込んで帰られた方々がおりました。来年も観察会を通して、川・自然に親しんで頂くお手伝いをしていきたいと思います。



河原での水生生物調査の様子



室内での水質分析（パックテストなど）

アクアボール

<事業報告4>

第3回夏井川かわくだり 参加報告

田中 博文

平成28年9月25日（日）いわき市平鎌田の夏井川親水公園にて第3回かわくだりを開催しました。天候は驚異の晴れ女であるMさんの参加で何とか好天に恵まりましたが、9月中連日降り続いた雨の影響で増水しており、水位は若干下がったものの流量がやや多く流速も速かったため、安全性を考慮してかわくだり自体は中止し、区間を親水階段部だけに限定、且つ補助ロープや救助要員を下流に数名配置するなどして、カヌー、アクアボールを主とした川遊びを行いました。

カヌー講師のレクチャーのあと、すぐさまカヌーに乗り込み、タイプの違うカヌーを各自楽しんでいました。今回アクアボールも導入したのですが、思いのほか中々好評でした。子供たちは家族関係なく仲良くなり、濡れることを恐れず最後まで元気いっぱいだった姿に大人たちは脱帽でした。川遊びの面白さ、怖さを体験して貰えたと思います。

準備等携わっていただいた方々、駐車場を借用させていただいた東日本国際大様、有難うございました。来年第4回を開催しますが、天候に恵まれるよう祈るばかりです。



カヌー③



アクアボール



川流れ・救助体験



笹舟づくり



全員で



最後に全員でゴミ拾い



<事業報告5>

26時間通日調査 ～ 赤沼川水系

阿部 孝男

今年で9回目を迎える26時間水質調査は、今年は赤沼川水系で10月7日～8日に行いました。

今まで調査した河川は H20-好間川、H21-新川、H22-茨原川、H23-夏井川、H24-宮川

H25-山王田川、H26-梵天川、H27-右支夏井川の8河川です。

赤沼構造改善センターを拠点に、定点を三夜川の2ヵ所として日中と夜間を交代で（1昼夜通しでの方もいましたが）、定点①（下流）は1時間ごと、定点②（上流）は4時間ごとに行い、現地で水位と水温を計測し、採水した水はパックテスト・導電率・透視度・臭いなどを分析し記録していきしました。

今回の調査時に地元の方からも声をかけて頂き励みになりましたが、ある時通りがかりのおじいちゃんが

“何してるの？ああ水質検査かい ご苦労さんだねえ～”

“稲刈りも終わって小川江筋も止めたから水流れてねえべ” と・・・（；°Д°）

確かに水位の変化が全くない・・・三夜川は小川江筋から用水し灌漑の後は農業用排水路化しているかもしれません。

唯一水位の変動があったのは海の満潮時と重なった時でした。

でもそれなりに水質や水温の変化は多少なりともみられたので、これはこれで三夜川特有のデータかと思います。

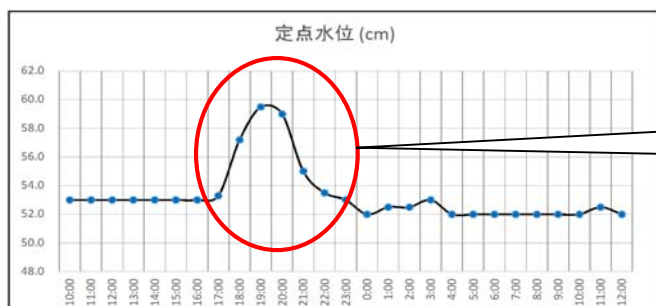
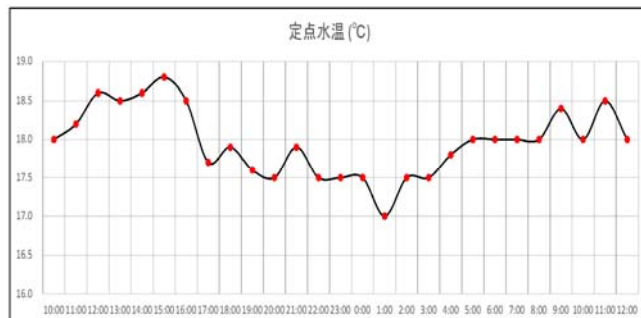
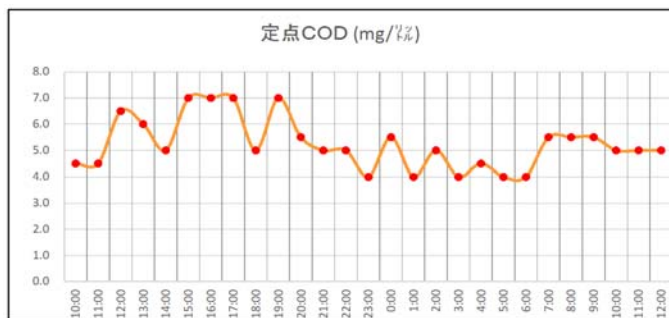
調査は現地だけでなく、採水検体を福島高専へ持ち込み公定法での分析を行いました。

結果は以下に示したとおりですが、結果データをなんとか地域みなさんに知ってもらい、これからの河川環境や水質について考え、できれば地域の方々にも参加してもらいたいものです。

今回参加協力してくださった方々みなさん大変お疲れ様でした。

小野町からの差し入れもありがとうございました。

来年は1回目に実施した好間川に戻って10回目を行う予定です。



満潮時刻と全く重なって
いました。



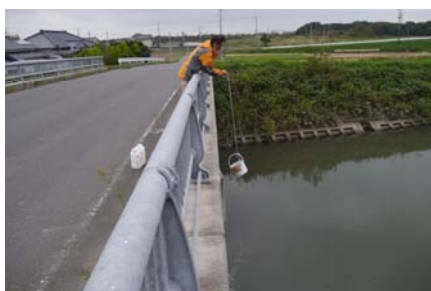
深夜の採水



室内分析



束の間の休憩



橋の上からの採水



最後に残ったみんなで

※過去の26時間水質調査記録を見たい方は事務局まで申し出ください。

＜事業報告6＞

『夏井川で遊ぶ、学ぶ、体験ツアー』の支援を行いました。

桶田隆司

平成28年11月6日、小野町の特定非営利活動法人 小野自然倶楽部が主催する『夏井川で遊ぶ、学ぶ、体験ツアー』の支援活動を行いました。

このツアーは、夏井川の上流と下流をまでの様々な姿を見せながら、水質調査や水の体験活動を行い、環境の違いを体感して、夏井川の自然を好きになってもらい、環境保全の重要性を認識して、次世代に残していくことを目的に実施されるものです。

1回目は夏井川上流小野町を中心に夏井川上流部の体験を実施されており、今回が2回目で、夏井川下流部の夏井川河口と四倉海岸を会場に実施され、小野町やいわき市の子供たち34人が参加しました。

午前中は、四倉海岸です。

① 砂像体験

逆さにした底のないポリバケツに砂を詰め、3段に積み重ねたりしますが、海水をくみに行つたついでに、海へドボン！きゅー！わー！子供たちは元気です。

② 鳴き砂体験

四倉海岸は広く鳴き砂が保存されている砂浜です。鳴き砂「きゅっ！きゅっ！」、『初めて聞いた。不思議な音だね』驚きの声でした。鳴き砂は、ゴミが付着すると鳴かなくなるので環境のバロメータとされていることや、花崗岩からなる阿武隈山地から夏井川を流れて海に運ばれてくることを勉強しました。



午後から夏井川です。

夏井川河口では、遊ぶ前に勉強です。橋本先生から水質講座を受け、試験を行いました。

- ① 水質調査は、海水（しょっぱい河口の水）と淡水（小川公民館前の夏井川の水）の2種類の水を、COD、におい、導電率、透視度の4項目について調査しました。



② アクアボール・カヌー体験

待ちに待った、アクアボール。河口閉塞しているので海へは流れません。安全です。

上流側からの風が強かったので、アクアボールもカヌーも上流へはなかなか思うように進みません。風に押されて海の方へ……。でも、河口閉塞状態のため海へは流れず安全です。うーん？海に繋がっていない川？なんか変ですね。現状は、横川から仁井田川を経由して海へ、勉強しました。



③ 想定外の河口閉塞砂山を利用した滑り台

河口閉塞の砂山も子供たちには最高の滑り台となりました。

丸一日、子供たちは元気いっぱい、いつもとちがう夏井川を体験しました。

川への親しみ、環境への関心向上、心の豊かさが向上したはずです。



『子供たちの笑顔がはじける夏井川』実践！！

お手伝いの、皆様お疲れ様でした。

<事業報告7>

全国河川愛護団体交流会福島大会

阿部孝男

平成13年から始まった全国河川愛護団体交流会の第16回目は、平成28年11月12、13日の両日、福島市の荒川近くにある「吉井田学習センター」で開催されました。

約60名の参加者の内、地元福島県から40人が参加、当会からも5名が参加しました。

基調講演は「荒川ものがたり」と題して、日本考古学学会会員の柴田 俊章氏に講演頂きました。

6年連続水質日本一の荒川の誕生と太古からの歴史を交えたお話で、荒川沿いに暮らしていた人々の様子が想い出がえるようでした。

活動事例発表は6団体の発表があり、活動内容やフィールドは違えど共感できるお話や旬な話題など盛りだくさんでどれも興味深く聞くことができました。

【活動事例発表】

- ① 『河川と密接な下水道！下水管を保全するための地中レーダーによる空洞探査』：宮本 高行氏
- ② 『ふるさとの川・荒川』：齋藤 忠雄氏
- ③ 『錦川流域ネット交流会の最近の活動』白井 啓二氏
- ④ 『一の坂川ホテル護岸が完成しました』：斎藤 喜美子氏
- ⑤ 『掘割再生まちづくり新潟』：阿部 信夫氏
- ⑥ 『東日本大震災からの復興！！子供たちの笑顔がはじける夏井川！』：桶田 隆司氏

意見交換会では当会の橋本代表世話人が座長を、木田都城子さんが司会進行を務めました。大役ご苦労様でした。



基調講演の柴田 俊章氏



会場の様子



桶田さんの発表



交流会参加者全員で



いつもの・・・（ほんの一部です）



山口県から参加

交流会後はお待ちかねの懇親会！ここからが本番です（？）

もういつもながら同窓会の感じですね。一年ぶりに逢う方々や久しぶりに会う面々、加えて岩手県や宮城県からの初参加もあり、交流会での話題を始め各地域での活動の話題など延々と続き大変な盛り上がり様で、さらに交流を深めました。

会場となった「岩代屋敷大王」さんからお酒の差し入れもありました。ありがとうございました。



女性参加者だけで、貴重な1枚です！

2 日目は現地視察を行いました。マイクロバスで荒川に移動し、荒川沿いを荒川づくり協議会の案内人の説明を聞きながら、江戸時代に造られたという霞提や奥入瀬（用水路）を紅葉真っ盛りの中散策しました。

最近はクマが出没するらしく、クマの足跡やフンも確認できました。（；°Д°）



江戸時代に造られた石積の霞提



これも江戸時代に造られた用水路



紅葉と吾妻小富士雪化粧がのマッチしています



地藏原堰堤にて

来年は山口県開催に決定しました！ みんなで山口県に乗り込みましょう。

＜事業報告8＞

新川ひょうたん島の清掃活動

佐藤 忠

平成28年12月3日7:30から約1時間30分、いわき芸術文化交流館アリオス裏の新川河川敷内にあります「ひょうたん島」を中心に清掃活動をしました。夏井川流域住民による川づくり連絡会が、毎月第一土曜日に実施している草刈の行事です。「満たされる行事」-という思いから参加しております。12月3日の朝、ひょうたん島の回りに、カモ2羽が泳いでいました。静かな環境です。

◆前月11月7日の朝は、ひょうたん島の内側の土砂地面には、カモが歩いた足指の跡が、一面に数多くありました。そして、十数羽のカモが、上流に向かい泳いで行きました。また、サケが一匹、遡上する姿も観察できました。

◆12月3日のひょうたん島内部の石畳の土砂清掃は、水洗作業です。ブラシ掛けと手動ポンプによる丁寧な清掃作業でした。島への渡り石の上や河川敷の階段等の土砂撤去作業も、県職員の方々、アリオス館長さん方たちの協力には、本当に感謝です。

新川ひょうたん島を中心とした親水設備は、流域の貴重な資源です。島内部の段差の解消、流れの粗朶柵の修繕改良等、河川環境の整備・活用は楽しいものです。



＜寄稿文-1＞

～小玉川水辺の教室に参加して～

神田 まゆみ（好間を考える会会員）

7月31日 小川町の小玉川での「水質調査」に初めて参加させていただきました。

小学生が数名に大人が倍以上の人数でしたが、全員同じ眼の輝きをしていました。

朝 汲んできたという川の水の水質を検査してから、全員で長靴を履いて川に入りました。

アミで1回すくっただけで、あんなにいろいろの生物がいるのには ちょっとビックリしました。

近くの夏井川の支流近辺の田んぼで、子供の頃ホタル採りをしましたが、今は川をコンクリートに整備されて、ホタルが全くいなくなってしまう残念です。

それにしても 救命具を持って川下で踏ん張っていた大人達がかっこよかったです。

そして こういう調査等に参加する子供達が大人になったら、同じようにきれいな川を守って行ってくれるのかな、ホタルを守ってくれるかなと 期待が膨らみました。

<寄稿文-2>

夏井川の思い出から ～ やっぱり夏井川は宝の川

阿部 武市

昔話で恐縮ですが、私の小学校の頃、第2次世界大戦で日本は連合国軍に敗れ終戦となり、我が国は極端な物資・食糧の不足に陥りました。食べ物は、麦飯はまだ良いほうで、ジャガイモ、サツマイモ、果ては大根までも御飯に混ぜた代用食でした。学校の校庭も開墾してサツマイモを植えた事を覚えております。幸い私の家は農家だったので、それほどではなかった。夏井川の河原の畑にはたくさんの野菜やサツマ等を作っていました。夏井川は、秋の獲り取り入れの頃になると大洪水に見舞われることが多く、折角作ったサツマイモ畑が水浸しになり、2～3日続くこともありました。そんな時、私は母と2人で、水の中のサツマイモを腰まで水に浸かりながら掘り起こしたのを覚えております。長く水に浸かっているとサツマイモは腐ってしまい、「カリカリイモ」になり、煮ても焼いても食えなくなります。

しかし、この洪水も役に立つこともあります。上流からドロや砂が運ばれて来て肥料となり、野鼠や病原菌などをすっかり押し流してくれるので、次の年は、肥料無しで立派な野菜やサツマイモができるのです。

洪水も少しは役に立つのですね。やっぱり夏井川は私たちの宝の川ですね。

～～～ 会員の皆様からの御寄稿をお待ちしております。 ～～～

会報 第43号

2017.1.1

発行：夏井川流域住民による川づくり連絡会

事務局：〒970-8017 いわき市石森2丁目9-17 永井 精

Tel.0246-88-7338